**特別研究発表会予稿の作成例**

A Sample of Japanese Manuscript for Final Research Reports

**電子 花子（電子情報通信工学専攻）**

**(研究概要)**

　専攻科電子情報通信工学専攻における特別研究Ⅱ発表会の予稿の書式を例示し，一般的な注意点を述べる。本文中の内容を熟読し，本書式に従って予稿を作成すること。あらかじめ指定されているフォント種別やフォントサイズを変更しない。本書式を逸脱している場合には，再提出を求めることがある。

研究概要は２００字～３００字程度にまとめること。

**１．はじめに**

 特別研究Ⅱ発表会の予稿の作成例を示す。節の構成は任意とする。

　Ａ４サイズ２ページにまとめること。

　図表の関係で，２段組みが好ましくないときは１段組にしてもよい。本文は，9.5とするが，LaTeXにより作成する場合は，9ポイントも可とする。

提出期限は必ず守ること

提出先：Blackboard

**２．数式および数学記号**

数式や数学記号は式(1)のように本文と独立している場合でも，

 (1)

また，のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成する。数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにする。のように，関数名は立体とし，斜体の変数と区別する。文中の数式は，前後の行間隔が広くならないように工夫する。

**３．図表**

(1) 図表の位置

　図表は，最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。ページの上部，または下部に集めてレイアウトする。図表の横幅は，「２段ぶち抜き」あるいは「１段の幅いっぱい」のいずれかとする。図表の幅を１段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置しない。図表と文章本体との間には１行程度の空白を空ける。

(2) 図表中の文字およびキャプション

　図表中の文字や数式の大きさは本文(9.5ポイト)と同程度とする。図表のキャプション（タイトル）は，本文に記述する。長いキャプションはインデントして折り返す。英文キャプションの場合，表はTable 1，図はFig. 2 とする。単語の途中で改行する場合には，適正な位置にハイフンを入れる。

(3) 図表中の画像

図表中に画像を挿入する場合，可能な限り画像のサイズ（ファイルサイズ）を低減する。

(4) 図の挿入

　任意の位置に図を挿入するには，[挿入]-[テキストボックス]－[横書きテキストボックスの挿入]により，図の配置を決めた後，作成した図に対し[貼り付け]-[形式を選択して貼り付け]-[図（拡張メタファイル）]を用いると，移動やサイズ変更しても品質が保たれる。

(5) 数値グラフ

説明図ではなく数値データに基づくグラフの場合には，各軸の名称（ラベル），単位，凡例を入れてください。凡例や線種は，色分けで区別せず，白黒印刷で見易いものにする。図2の例のように，比較すべきデータを可能な限り1つのグラフ中に入れて同種のグラフを複数並べない。やむを得ず複数の図を用いる場合は，図2(a)，(b)等とし，横軸の目盛りを揃える。

表1 表のキャプションは表の上に置き，このように長いときはインデントして折り返す

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実験番号 | 水深(m) | 流量 (m3/s) |
| 1 | 2.5 | 10.0 |
| 2 | 3.8 | 20.0 |
| 3 | 4.5 | 30.0 |



図2 図のキャプションは図の下に置く

**４．参考文献の引用とリスト**

　参考文献は出現順に番号を振り，引用箇所で[1,2]のように角括弧付き数字で指示す。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し，脚注にしない。参考文献は，論文誌，書籍等の学術的な公開情報とし，通常カタログやインターネットの記事は含めない。ただし，インターネット版の論文は参考文献としてよい。卒業研究論文や特別研究論文は，本論文集に限り，参考文献に含めてよい。

論文を参考文献として記載する場合，著者，論文名，論文誌名，巻，号，ページ，発行年の順に記述する。引用ページが複数の場合はpp.とし，1ページの場合は，p.とする。書籍の場合は，著者，書籍名，（著書の一部を引用する場合ページ，）出版社，発行年の順に記載する。論文名や出版社名は，電子情報通信学会などが規定する省略形を用いて記載する。

**５．おわりに**

専攻科電子情報通信工学専攻における特別研究発表会論文集の書式を例示し，一般的な注意点を述べた。

謝辞：本稿の執筆をすすめるにあたりご指導いただいた本校ＸＸＸＸ教授，ＸＸＸＸ準教授に感謝いたします。

**参考文献**

1. 玉城龍洋, “確率速度モデルとCA法による交通シミュレーション,” 情処学論, 45, 3, pp. 858­869, 2004.
2. 棚橋巌,“広域交通流シミュレータNETSTREAM,”豊田中央研究所R&Dレビュー, 37, 2, pp. 47­53, 2002.
3. 山内弘隆，電力システム改革の検証，pp. 68­98, 白桃書房，2015.
4. A.K. Iyer and G.V. Eleftheriades, “Negative refractive index metamaterials supporting 2-D waves,” IEEE MTT-S Int. Symp., 2, pp. 1067-1070, 2002.

（２ページ目の右段も最後尾まで記述することが望ましい。）